

## ⑫ 公開特許公報 (A)

平2-8480

⑬ Int. Cl. 6

E 05 C 17/54

識別記号

府内整理番号

8604-2E

⑭ 公開 平成2年(1990)1月11日

審査請求 未請求 請求項の数 1 (全2頁)

⑮ 発明の名称 ドアストッパー

⑯ 特 願 昭63-158350

⑯ 出 願 昭63(1988)6月27日

⑰ 発明者 古寺 勝美 埼玉県桶川市大字川田谷2327-5

⑰ 出願人 古寺 勝美 埼玉県桶川市大字川田谷2327-5

## 明細書

1. 発明の名称 ドアストッパー

## 2. 特許請求の範囲

2個のゴム製の球をひもでつなぎ、扉を好きな位置に止めるために使用できることを特長とする扉止め。

## 3. 発明の詳細な説明

## 産業上の利用分野

この発明は簡単に、しっかりと、どの位置にでも扉を止めるのに用いるものである。

## 従来の技術

従来、扉を半開きで止めておくには扉と床の隙間にくさび形をした木片やゴムを押し入れるか、扉と扉を取り付けた柱との間に木片を挟んでいた。

## 発明が解決しようとする問題点

くさび形の扉止めは、扉の下にしっかりと入れないと扉は止らず、扉に強い力がかかると動いてしまった。又、止めたい位置に扉を止めるのに手間取り、扉からはずすときに扉の一部を破損させたりした。

## 問題点を解決するための手段

本案はこの欠点を除くためになされたもので、これを図面について説明すれば、2個のゴム球1を一本のひも2に通し、ゴム球が抜け止め3まで動かせるようにした。

## 作用

ゴム球とゴム球の間のひもを扉の下に通し、ゴム球を扉の両側面迄移動させ扉をゴム球で挟むように置けば扉はそこで固定される。又、ゴム球とゴム球の間のひもを長くとれば、その長さだけ扉は動く。さらに扉の無い扉には閉めた扉の動く側へゴム球を置けば扉は閉かなくなり鍵をかけたと似た効果を生む。

## 作用の説明

通常、球は押されれば転がるが、この場合、ゴム球を使用し、さらに扉と床の二箇所に接している為、ゴム球はその二箇所でのゴムの持つ摩擦力によって回転できない。この状態で扉を強く押せばゴム球は逆に扉と床の隙間に入り込もうとする。

## 実施例

ゴム球の大きさは扉と床の間隔によって決まり、最低その間隔以上の大きさが必要で材質は硬めのものがよい。ひもはクサリでもよい。

## 効果

本案は天然ゴム、合成ゴムで作られる球なので扉の破損もせず扉を止める為の力も全く不要で、このドアストッパーで止めた扉に強い力が働いても強力な効果がある。

## 4. 図面の簡単な説明

図は本考案の斜視図である。図中の番号1はゴム球、2はひも、3は球の抜け止め。

特許出願人 古寺勝美

- 2 -

